

2017冬季アジア札幌大会による 北海道内への経済波及効果 ー経済波及効果推計 117億円ー

<要旨>

- 第8回アジア冬季競技大会（2017/札幌）（略称：2017冬季アジア札幌大会）が、札幌市・帯広市において開催される（開催期間：2017年2月19～26日）。大会期間中、観客、メディア、ボランティア等来訪者の合計は約10万人、また、約30のアジアの国と地域から約1,500人の選手・役員の参加が見込まれ、過去最大規模の冬季アジア大会となる。
- 本レポートは、「2017冬季アジア札幌大会による北海道内への経済波及効果」の試算を行い、経済波及効果をより高めるための方向性、スポーツ・観光振興にかかる開催地の中長期的取り組みへの示唆などをとりまとめたものである。
- 2017冬季アジア札幌大会開催による北海道内への経済波及効果の試算を行ったところ、合計117億円（うち直接効果71億円、間接一次効果26億円、間接二次効果20億円）が見込まれる結果となった。
- 今後、試算された経済波及効果をより高めるためには、来訪者の増加がポイントとなる。このため、道内の行政、企業、在住外国人を含む市民、競技関係者、マスコミなど多様な主体（＝オール北海道）が一体となって、道内外に情報発信し、大会を作り込んでいく気運を醸成する活動が一層求められよう。また、観光消費支出額の増加を通じた経済波及効果の増加幅（感応度）を考えると、道外来訪者や外国人来訪者への情報発信強化・旅行エージェント等との連携も重要となる。
- 一方、2017冬季アジア札幌大会は、大会開催にかかる短期的な経済波及効果のみならず、2026冬季オリンピック・パラリンピック大会の招致、国際スポーツ大会・スポーツMICEの誘致、インバウンド観光客の増加（冬季観光客底上げや滞在日数増加を含む）といった中長期的な目標への寄与も期待される。
- これらの中長期的な目標を実現していくためにも、今大会を単に成功裏に導くのみならず、札幌市民や北海道民がウィンタースポーツの魅力を体感し、その魅力を発信し、札幌市の都市ブランドを高め、シビックプライドを醸成させる大会としていくことが重要である。更に、道内他市町村もアジア各国へ向けて観光資源の情報発信、シティプロモートを実施するなどの戦略的な取り組みへと発展させることも期待される。
- 本レポートが、2017冬季アジア札幌大会開催に向けた気運醸成、短期的な経済波及効果の実現、更に中長期的には北海道経済を活性化する一助になれば幸いである。

本レポート作成にあたりましては、大会組織委員会の皆様にインタビューや文面チェックなど大変お世話になりました。この場を借りまして御礼申し上げます。

1 . 冬季アジア大会の概要

- 冬季アジア大会は、1982年にアジア地域の冬季スポーツの振興・発展及び競技力の向上を目的に、日本オリンピック委員会（JOC）が中心となり、アジアオリンピック評議会（OCA）に提案を行い、1984年に創設された。
- 1986年に第1回大会が札幌で開催され、2017年札幌大会で第8回を迎える。
- 開催間隔は第1回大会以降、アジア競技大会（夏季）と重複しない形で、原則として4年に1回となっている。
- 1986年の第1回大会（札幌）の参加国は東アジアを中心とした7カ国と小規模な大会であったが、2011年の第7回大会（アスタナ・アルマティ）には、アジア全域から26の国と地域が参加する大会へと成長している。
- 日本選手団は第1回大会より参加し、メダル獲得数ランキングで常に上位に位置するなど、好成績を収めてきている。2011年の第7回大会（アスタナ・アルマティ）では開催国のカザフスタンに次ぐ、13個の金メダルを獲得している。

大会規模の推移

| 回 | 開催年 | 開催地（開催国） | 参加国・地域数 | 参加人数 | 競技数 | 種別数 |
|-----|-------|------------------------|---------|--------|-----|------|
| 第1回 | 1986年 | 札幌（日本） | 7 | 430 | 4競技 | 7種別 |
| 第2回 | 1990年 | 札幌（日本） | 10 | 441 | 4競技 | 6種別 |
| 第3回 | 1996年 | ハルビン （中華人民共和国） | 17 | 702 | 4競技 | 8種別 |
| 第4回 | 1999年 | カンウォン（大韓民国） | 21 | 798 | 4競技 | 7種別 |
| 第5回 | 2003年 | 青森（日本） | 29 | 1,016 | 5競技 | 11種別 |
| 第6回 | 2007年 | 長春 （中華人民共和国） | 26 | 1,101 | 5競技 | 10種別 |
| 第7回 | 2011年 | アスタナ・アルマティ （カザフスタン） | 26 | 786 | 5競技 | 11種別 |
| 第8回 | 2017年 | 札幌（日本） | 約30 | 約1,500 | 5競技 | 11種別 |

(注)参加人数は役員および選手の合計（第7回大会は選手のみ合計）
 第8回大会については組織委員会による見込み値および予定

出所：第8回札幌アジア冬季競技大会組織委員会公式HPおよび
 公益財団法人日本オリンピック委員会公式HPよりDBJ作成

2-1 . 2017冬季アジア札幌大会の概要

2017冬季アジア札幌大会（以下、「今大会」）の主な特徴

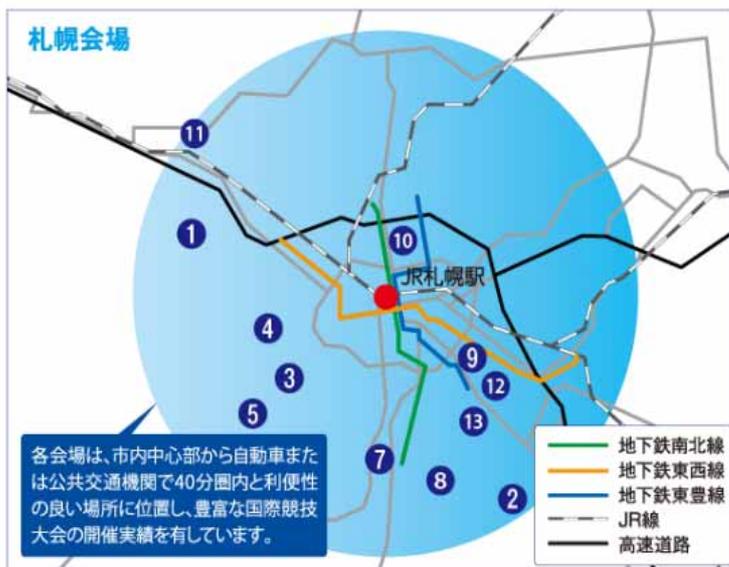
- これまで日本では第1回大会（札幌市）、第2回大会（札幌市）、第5回大会（青森県）の計3回開催され、今大会で4回目の日本開催となる。
- 札幌市を中心に開催され、スピードスケートは帯広市で競技が行われる。
- 大会組織委員会は約30の国と地域から約1,500人の選手・役員が参加すると見込んでおり、過去最大規模となることを想定している。

| | | |
|----------------|--|----------|
| 大会名称 (大会略称) | 第8回アジア冬季競技大会(2017/札幌) (2017冬季アジア札幌大会) | |
| 主催 | アジアオリンピック評議会（OCA） | |
| 開催期間 | 2017年2月19日(日)～26日(日) アイスホッケー、カーリングは開会式に先立って2月16日(木)より順次開幕 | |
| 参加国・地域数 | 約30の国と地域 | |
| 参加人数 | 約1,500人を想定 | |
| 開催競技/種別 | スキー | アルペン |
| | | クロスカントリー |
| | | ジャンプ |
| | | フリースタイル |
| | | スノーボード |
| | スケート | スピードスケート |
| | | ショートトラック |
| フィギュア | | |
| | バイアスロン | |
| | アイスホッケー | |
| | カーリング | |
| 試合会場 | 札幌市：12会場(開会式会場を含む) 帯広市：1会場（スピードスケート開催） | |

出所：第8回札幌アジア冬季競技大会組織委員会公式HPおよび公益財団法人日本オリンピック委員会公式HPよりDBJ作成

2-2. 2017冬季アジア札幌大会の概要（開催会場一覧）

- 今大会は全13会場（スピードスケートは帯広市での開催）で開催され、札幌会場はJR札幌駅から自動車または公共交通機関で40分圏内に位置している。
- 今大会の開会式は札幌ドーム、閉会式は北海道立真駒内公園屋内競技場で開催される予定となっている。



出所：第8回札幌アジア冬季競技大会組織委員会公式HP

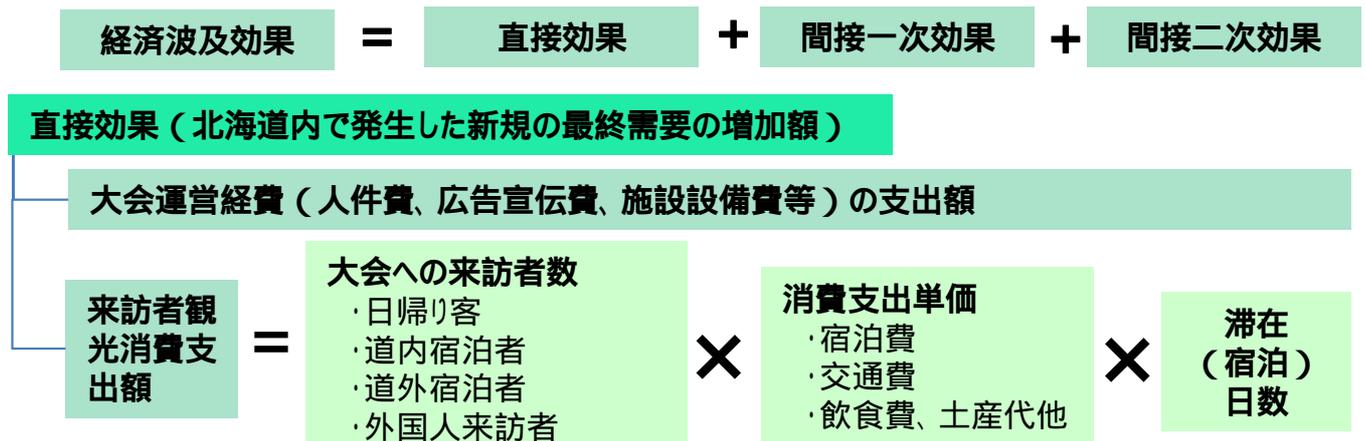
| NO | 会場名 | 開催競技・式典 |
|----|-----------------|------------------------|
| 1 | サッポロテイネ | アルペン、スノーボード |
| 2 | 札幌市白旗山競技場 | クロスカントリー |
| 3 | 札幌市宮の森ジャンプ競技場 | ジャンプ |
| 4 | 札幌市大倉山ジャンプ競技場 | ジャンプ |
| 5 | さっぽろばんけいスキー場 | フリースタイル、スノーボード |
| 6 | 帯広の森屋内スピードスケート場 | スピードスケート |
| 7 | 北海道立真駒内公園屋内競技場 | ショートトラック、フィギュアスケート、閉会式 |
| 8 | 西岡バイアスロン競技場 | バイアスロン |
| 9 | 札幌市月寒体育館 | アイスホッケー |
| 10 | 札幌市美香保体育館 | アイスホッケー |
| 11 | 札幌市星置スケート場 | アイスホッケー |
| 12 | 札幌市カーリング場 | カーリング |
| 13 | 札幌ドーム | 開会式 |

3. 北海道内への経済波及効果（その1）

経済波及効果算出の考え方・プロセス

- 今大会開催の北海道内に及ぼす経済波及効果は、今大会開催に際し支出された大会運営経費及び今大会に来訪した観客・選手等（以下、「来訪者」）が道内で消費することにより発生する「直接効果」と、直接効果に誘発される「間接波及効果」の合計として算出した。
- 直接効果のうち消費支出額は、来訪者を「日帰り客」、「道内宿泊者」、「道外宿泊者」、「外国人来訪者」に分類し、それぞれに宿泊費、飲食費、交通費、買物代等の消費支出単価と滞在日数を掛けて算出（図表1参照）。
- 間接効果は、直接効果に伴う原材料等の購入（投入）によって誘発される財・サービスの生産額である「間接一次効果」と、直接効果や間接一次効果による雇用者所得増加により消費支出が増加することで誘発される財・サービスの生産額である「間接二次効果」の合計として算出（図表2参照）。

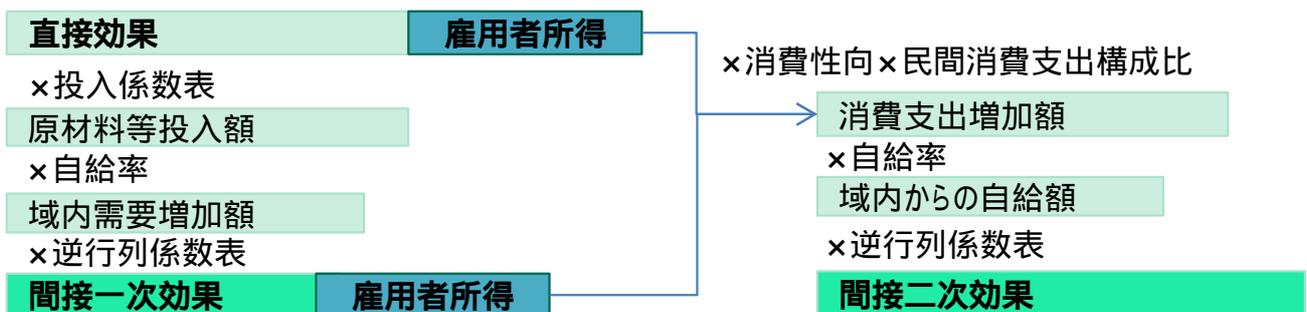
図表1 経済波及効果と直接効果



（出所）当大会組織委員会資料等、大会組織委員会ヒアリング、北海道観光入込客数調査報告書（H26年度）、第5回北海道観光産業経済効果調査報告書、文部科学省スポーツの経済効果に関する調査研究（平成26年度）等。一部DBJ推計

支出項目ごとに産業連関表の各産業分類への割り振りを実施。購入者価格は生産者価格に修正し、マージンは商業・運輸部門に計上。

図表2 間接効果



出所：平成21年延長北海道産業連関表、総務省統計局家計調査年報（家計収支編）平成27年都市階級・地方・都道府県庁所在市別（勤労者世帯）

3. 北海道内への経済波及効果（その2）

経済波及効果の試算結果

- 前項の算出プロセスに基づき、今大会開催による経済波及効果の試算を行ったところ、直接効果が71億円、間接一次効果が26億円、間接二次効果が20億円で合計117億円の経済波及効果が見込まれる結果となった（図表3参照）。
- 大会期間中、観客、メディア、ボランティア等来訪者の合計は約10万人を見込む。

図表3 北海道旅行中の平均支出総額

| 直接効果 | 間接一次効果 | 間接二次効果 | 経済波及効果計 |
|------|--------|--------|---------|
| 71億円 | 26億円 | 20億円 | 117億円 |

来訪者の属性に応じた経済波及効果の増加幅

- 北海道の調査によると、訪日外国人来訪者の1回当り旅行中の平均支出額は、滞在日数が長いこと等から日本人のそれと比べて多い（図表4参照：なお、観光庁「訪日外国人の消費動向」によると、訪日外国人1人当たりの旅行中支出額は、平成22年から27年の5年間で32%増）
- このような消費単価の違いを背景に、来訪者による観光消費支出額の増加を通じた経済波及効果の増加幅（感応度）は、外国人来訪者が増えた場合に最も高くなる（図表5参照）。

図表4 北海道旅行中の平均支出総額

| | 日帰り客 | 道内宿泊者 | 道外宿泊者 | 外国人来訪者 |
|--------|--------|---------|---------|----------|
| 平均支出総額 | 7,246円 | 27,015円 | 69,669円 | 122,127円 |
| 平均宿泊日数 | | 1.7泊 | 2.5泊 | 5.4泊 |

出所：「第5回北海道観光産業経済効果調査報告書（平成23年3月）」よりDBJ作成。

図表5 観客が1000人増えた場合における経済波及効果の増加幅（感応度）

| 日帰り客 | 道内宿泊者 | 道外宿泊者 | 外国人来訪者 |
|-------|-------|--------|--------|
| 12百万円 | 44百万円 | 117百万円 | 207百万円 |

3. 北海道内への経済波及効果（その3）

経済波及効果を高めるために

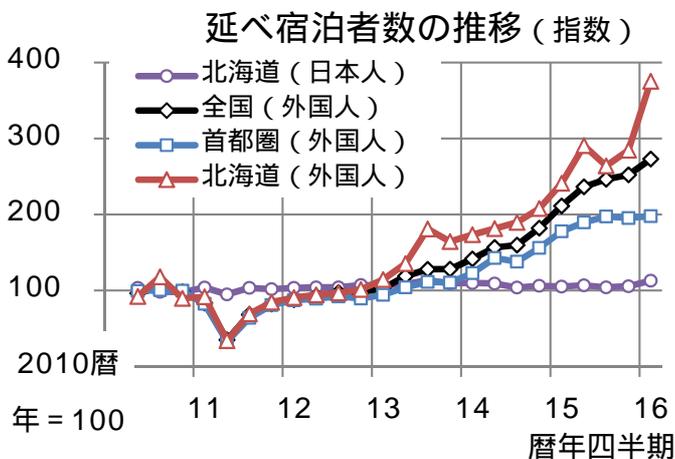
- 今後、試算された経済波及効果をより高めるためには、来訪者の増加がポイントとなる。このため、道内の行政、企業、在住外国人を含む市民、競技関係者、マスコミなど多様な主体（＝オール北海道）が一体となって、冬季観光客の底上げにも寄与する札幌のウィンタースポーツを道内外に情報発信し、大会を作り込んでいく気運を醸成する活動が一層求められよう。
- また、感応度分析で相応に高い結果を示した道外来訪者や、最も高い感応度を示した外国人来訪者への情報発信の強化・旅行エージェント等との連携が効果的である。
- 北海道のインバウンド観光は大きく伸びている（図表6・7参照）。今大会の様なスポーツ関連の大会に際して、通常の観光を目的とする外国人にもアプローチし、旅行日程に大会の観覧を組み入れてもらうよう取り組めば、経済波及効果の伸び代は十分にあると考える。元々北海道を訪れる行程だとしても、来訪者の滞在日数が伸びることもあり得る。更に、大会等を契機に開催地の魅力をアピール出来れば、伸長を続けるインバウンド需要を、単発の旅行で終わらせずリピーター化するうえでも、スポーツ大会等は有力なアクセントになりえよう。

図表6 北海道への観光入込客数（平成26年10月～平成27年3月、万人）

| | 日帰り客 | 道内宿泊者 | 道外宿泊者 | 外国人来訪者 | 合計 |
|-----|-------|-------|-------|--------|-------|
| 人数 | 1,031 | 477 | 232 | 89 | 1,829 |
| 構成比 | 56.4% | 26.1% | 12.7% | 4.9% | |

出所：平成27年8月 北海道経済部観光局「北海道観光入込客数調査報告書（平成26年度）」よりDBJ作成。

図表7 北海道の延べ宿泊者数の推移



出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」より作成（15暦年以降は速報値）（注）季節調整値（DBJ試算）

スポーツ大会をきっかけとした開催地のブランディング インバウンドやリピーターの増加へ

4 . 2017冬季アジア札幌大会による中長期的な目標への寄与

- 今大会は、これまで述べてきた大会開催にかかる短期的な経済波及効果のみならず、中長期的には、札幌市や北海道によるスポーツ・観光振興への寄与も期待される。
- 以下では、そうした中長期に亘る戦略的な目標、取り組みに対し今大会の担いする意義、役割について考察したい。



目標 : 2026冬季オリンピック・パラリンピック大会の招致

- 現在、札幌市は、2026冬季オリンピック・パラリンピック大会の招致を目指している。札幌市が、2016年5月に2026冬季オリンピック・パラリンピック大会が開催された場合の「道内への経済波及効果は8,850億円」との試算を発表した通り、大きな経済効果が期待される。
- オリンピック・パラリンピック大会招致の気運醸成、成功のためにも、今大会を、参加者や観客などの満足度を向上させる様なホスピタリティを持った運営、市民ボランティアや競技団体、学校や企業等の関係団体間の連携、そして札幌・北海道全体が一体となった大会運営に磨きをかける機会とすることが期待される。冬季のスポーツ大会運営にかかる土壌の厚さとその涵養・養成は、大規模国際大会を招致する上で何より重要な要素である。
- また、今大会を通じて札幌市民や北海道民がウィンタースポーツの魅力を感じ、その魅力を発信していくことで、札幌の文化としてのウィンタースポーツ競技の振興が図られ、札幌市民（成人）のウィンタースポーツ実施率の向上（現状24年度11.7% 目標34年度25.0%）にもつながろう。札幌市の都市ブランドを高め、シビックプライドを醸成すること自体が、2026冬季オリンピック・パラリンピック大会招致の気運醸成、招致成功のポイントとなる。

目標 : 国際スポーツ大会・スポーツMICEの誘致

- 今大会の試算の通り、国際スポーツ大会は、経済波及効果をもたらす。また、事前合宿、スポーツイベント・関連会議なども含めた、いわゆるスポーツMICEの誘致を増加させていくために、前述の通り、今大会を成功に導き、大会終了後も今大会の運営ノウハウをいかして多様な国の人々との国際交流を進め、札幌市のスポーツ資源、魅力を国内外へ情報発信し、シティプロモートを推進していくことが必要である。
- また、札幌市は、ラグビーワールドカップ2019日本大会、2020東京オリンピック・パラリンピックの会場のひとつとして予定されており、かかる国際スポーツ大会開催へ向けた気運醸成という点でも今大会は重要な国際スポーツ大会と位置づけられる。
- このため、今大会の成功とあわせて、2016年3月に設立された「さっぽろグローバルスポーツコミッション」の機能強化も重要となつてこよう。

目標 : インバウンド観光客の増加

- 前述の通り、インバウンド観光客の増加が、来訪者の属性別に見た場合、最も高い経済波及効果をもたらす。
- 今大会は、中国、韓国など大会参加国へのTV放映も予定されているが、アジア各国へ向け、多様な媒体、機会を通じた一層の情報発信、シティプロモートが重要となる。更に、大会参加選手等のSNSによる情報発信などを通じて、札幌市の認知度、都市ブランド力が高まることも期待される。
- こうした取り組みが、今大会終了後も、スポーツツーリズム、ウィンタースポーツ体験も含めたインバウンド観光客の増加につながれば、インバウンド観光客の増加という側面だけではなく、夏季に対して観光客が落ち込む冬季観光客の底上げ、滞在日数増加などへの効果も期待されよう。
- また、今大会を通じて、道内他市町村もアジア各国へ向け観光資源の情報発信、シティプロモートを実施していくことができれば、今後のインバウンド観光客の増加へ相乗効果が期待できる。
- 一方、札幌市は、2016年7月に設立した「札幌市ICT活用プラットフォーム検討会」において、今大会に関する、観客、選手、運営者向けICTの活用による、観戦・行動ビッグデータ等の収集・活用の実証実験を通じて、インバウンド観光、スポーツイベントなどへの施策へ反映していくことを検討している。このように、今大会はインバウンド観光やスポーツイベントの魅力向上へ向けた実証実験の場としての役割と貢献も期待される。

参考：札幌市スポーツ推進計画（2014年2月）



札幌市大倉山ジャンプ競技場



北海道立真駒内公園屋内競技場



帯広の森屋内スピードスケート場



札幌ドーム



2017 冬季アジア札幌大会
SAPPORO ASIAN WINTER GAMES



©Development Bank of Japan Inc.2016

本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引等を勧誘するものではありません。本資料は当行が信頼に足ると判断した情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性・確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しましては、ご自身のご判断でなされますようお願い致します。本資料は著作物であり、著作権法に基づき保護されています。本資料の全文または一部を転載・複製する際は、著作権者の許諾が必要ですので、当行までご連絡下さい。著作権法の定めに従い引用・転載・複製する際には、必ず、『出所：日本政策投資銀行』と明記して下さい。

(お問い合わせ先)

株式会社日本政策投資銀行 北海道支店

〒060-0003

札幌市中央区北3条西4丁目1 日本生命札幌ビル

Tel: 011-241-4117

E-mail: hkinfo@dbj.jp

株式会社日本政策投資銀行 地域企画部

〒100-8178

東京都千代田区大手町1-9-6 大手町フィナンシャルシティ サウスタワー

Tel: 03-3244-1633

E-mail: rppost@dbj.jp